

**倒産集計****信用交換所京都本社**

11年8月繊維倒産

**前月・前年比ともに負債額は膨らむ****▼全国▲ 発生件数=40件 負債額=145億4500万円**

2011年（平成23年）8月の全国繊維業者の倒産（負債額1000万円以上＝整理・内整理含む）は40件。前月比で5件（14.3%）増加したが、前年同月比で2件（4.8%）減少した。

負債額は145億4500万円で、前月比12億5500万円（9.4%）、前年同月比24億4500万円（20.2%）増加した。増加の主因は、近時動向が注目されていた109系アパレルの著名企業（株）ララ・プラン（東京都渋谷区、婦人カジュアルウェア製造・小売）が負債額69億8900万円を抱えて民事再生法を申請したため、このほか負債額10億円以上の大型倒産は（株）三恵（大阪府中央区、かばん・袋物卸、同22億6800万円）のみにとどまった。

原発事故による風評被害などから他業種では（株）安愚楽牧場（栃木県那須塩原市、肉牛飼育、民事再生）が負債額4330億円を抱え破たんするなど、震災関連の倒産が徐々に増加しつつあるが、繊維業界においては引き続き業績ジリ貧による小規模倒産が大勢を占める結果となった。消費全体の底上げには至らないものの、東北地区では復興に伴い需要が増加し、節電によるクールビス・涼感寝具ほか一部商材については引き続き好調さが見られる。急速な円高により懸念材料となっているデリバティブに係る損失の拡大など問題を抱えてはいるものの、セーフティネット・金融円滑法が資金繰り緩和に一定の効力を発揮し、下支えしている結果と見られる。

しかし、電気・ガス料金の値上げ、大手流通が行う円高還元セールによりデフレが誘発されるとの見方や、震災復興財源などの確保のため増税が取り沙汰されるなど消費意欲の減退が今後さらに強まる恐れがある。秋冬物が本格化する繊維企業にとっては年末年始に向けて予断の許さない状況が続いている。

業種別では「紳士・婦人・子供服・被服製造卸」11件、「小売商」9件、「ニット製品・洋品雑貨製造卸」7件、「寝具・インテリア製品製造卸」4件、「織物卸」「その他」各3件、「染色整理・特殊加工」「織物製造」「呉服・和装製品製造卸」各1件。

原因別では「業績ジリ貧」が32件で全体の80%を占め、次いで「業況急変」3件、「放漫経営」「信用度薄弱」各2件、「融手連鎖」1件となった。

**▼京都▲ 発生件数=2件(前年同月0件) 負債額=6億6500万円(前年同月0円)****▼滋賀▲ 発生件数=1件(前年同月0件) 負債額=1100万円(前年同月0円)**